

2020 年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名		長野保健医療大学リレー・フォー・ライフ JAPAN 信州長野 2020 応援隊
代表学生	所属大学名・学部・学年	長野保健医療大学看護学部看護学科 1 年
	ふりがな 氏名	はやし なぎさ 林 凪咲

教職員責任者	所属大学名・職名・ ふりがな 氏名	長野保健医療大学看護学部看護学科 准教授・宮越幸代 助教・宮澤美津子 みやこしきちよ みやざわみづこ
--------	-------------------------	--

活動名	灯を掲げ続ける！コロナに負けないサバイバーを支える
実施時期	2020 年 9 月 14 日（月）参加準備・21 日（月・祝）イベント参加協力
実施場所	長野市長野駅東口公園
活動内容	長野市での開催が今年第 9 回となった「リレーフォーライフ JAPAN」（がんの予防啓発とがん患者・その家族を支援する全国的なチャリティー企画）は、新型コロナウイルス感染症の影響で内容が簡素化されつつも、私たちは昨年の参加実績から限られた参加権を得ることができた。開催前、当日のテント内ブース企画が中止になったため私たち 8 名（看護学部 5 名・保健科学部 3 名）は、検診の啓発、闘病者への激励や追悼の気持ちをこめたメッセージ・ボードと灯籠を作成し、展示する準備を行った。また当日は、分担して来場者の体温チェックや手指消毒などの体制を整え作成したフェイスシールドの提供も行い、安全な開催ができるように努めた。参加が限定された約 70 名ほどの中、日没前には約 500 にもなるメッセージの書かれた灯籠を企画スタッフと協力し合いながら、公園全体に並べ点灯した。開会式後は、授業を通して交流のあったがん患者様が参加するサバイバーズラップ（行進）を拍手で見送り、エンプティ・テーブル（亡き人を想っての追悼企画）では、社会的距離を保ちながら身内や知り合いのがん患者を想い、黙とうし、がんで命を失う方々が一人でも少なくなること、闘病される方に治療の効果があがること、この企画の灯が次年度につながることを祈った。最後は、今年は現場で奮闘する医療従事者への感謝をこめつつ、灯籠の撤去、会場の撤収までを主体的に行った。
活動の成果 と 今後の課題	9 月上旬までに上田～長野地域の感染拡大の傾向があり、実行委員会の指示により 3 密を避けるため、テントを借り入れてのブース内メッセージ展示や声を出しての朗読が不可能となった。そこで急きょメッセージボードやフェイスシールド等の作成に切り替え、当初の目的が果たせるよう、先生と相談しながら行った。その結果、医療従事者の参加が限られる今年だからこそ、検温や衛生材料、医療品の提供は私たちが揃え安全な実施に協力することができた。夜風がかなり冷たく堪えたが救護は要請がなくがん治療で抵抗力の低い患者様にとっては、今年は体調や感染予防対策のためにウェブで参加される方々もあるとの報告を聞いた。その参加者の皆様に、私たちは医療従事者を目指す学生としての協力を表明し、受け入れられたことで、次代を担う後継者としてがん患者やその支援者を間接的に励ますことができたのではないだろうか。準備段階でのメッセージや灯籠の作成は、事前に学内の学生・教職員全員からの協力を得られ、次年度にバトンをつなぐ定例的な企画として学内で今後も定着できそうな手ごたえを感じた。特に長野駅に間近く 360 度見渡せる公園周囲を飾った手作りの灯籠は、道行く市民の目に留まり、報道機関にも取り上げられ、この企画の灯を消さず、次年度につなげるメッセージとなつたのではないだろうか。今年は残念ながら昨年のようなブース企画はできなかつたが、本学でがん闘病体験を語ってくださった実行委員の方にも、今後の支援を約束し、来年は本来の開催であれば企画委員会から学生委員として参加し、準備からともに大会を支えることを提案していきたい。

長野保健医療大学リレー・フォー・ライフ JAPAN 信州長野 2020 応援隊 参加報告

令和 2 年 9 月 21 日（月・祝） 於：長野駅東口公園

9 月 14 日（月）学内でのメッセージボードや衛生材料の準備（大学内）



今時見ごろのコスモスをあしらうことになりました

メッセージをどう効果的に並べようか、思案中です



額の部分はシールドが曇らないような工夫をしました 夕暮れに目立つよう片面はシンプルかつ華やかに

9 月 21 日（月・祝）リレー・フォー・ライフ JAPAN 信州長野 2020 当日（長野駅東口公園）



参加メンバー全員集合

スタッフと「HOPE」の文字を灯籠で形作りました

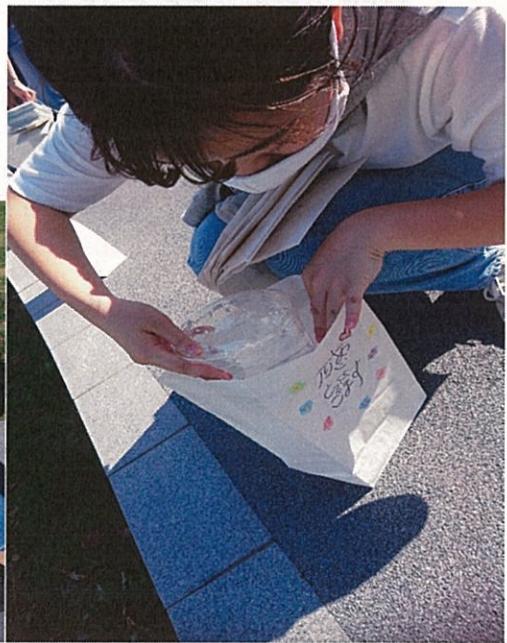


参加者の方の検温を実施

希望者にはフェイスシールドの着用を勧めました



特設コーナーで衛生材料や消毒の提供、検温を実施



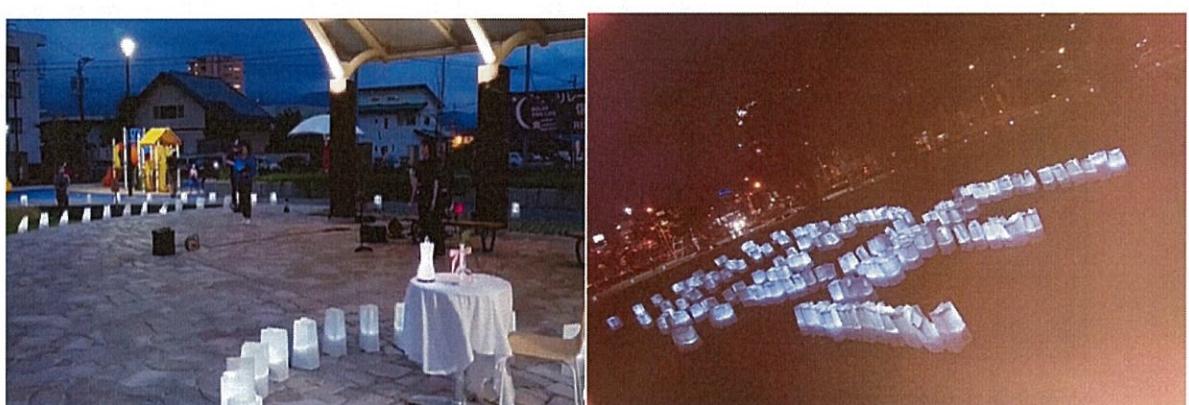
公園全周を皆さんからの手書きのメッセージ入り灯籠で飾り付けました
秋風が強い中、一つ一つに重しを入れ、ライトを点灯させて据え付けます



厳しいソーシャル・ディスタンスを心掛けつつも、参加者のサポートに苦心する場面もありました



簡素化されながらも、今年はできる限りの手作り感がいっぱいのイベントになりました



舞台を中心に、エンブティーテーブルで追悼　HOPE の灯が来年につながりますように